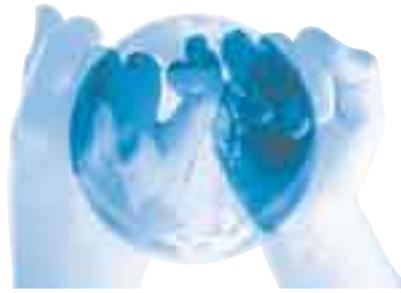


# 環境だより



環境課 ☎66・1121

買い物に、自分の買い物袋を持って行くことを特別なことのように感じている方がいると思います。しかし、30年ぐらい前の買い物風景を思い出してください。

その頃は、みんな自分の買い物かごを持って買い物に行っていました。

しかし、昭和50年代に石油を原料としたポリエチレン製レジ袋が登場したことで、レジ袋が、買い物かごに取って代わり、その風景が大きく変わりました。今では、国内で年間1人当たり300枚近く使われています。

そんな便利なレジ袋も、買い物が終われば役割を終え全

## マイバッグを持参しましょう

体の4分の3がそのままごみとして捨てられてしまします。さらに、その処理には、細心の注意を払わなければならないため、多額の費用がかかります。

蒲郡市では、可燃ごみの処理に年間約12億円がかかり、市民1人当たり、約1万4千円にもなっています。

そこで、ごみを増やさないために、次の3つのことを心がけましょう。

- ・マイバッグを持参し、レジ袋などは受けとらない。
  - ・一度受け取ったレジ袋は繰り返し利用する。
  - ・過剰包装は断り、不要なごみは持ち帰らない。
- 環境が問題となつている今こそ、昔の日本の習慣をもう一度見直し、買い物かご・マイバッグを持参しましょう。



# 光を観よう



市立交流観光  
がまごおり  
観光交流立市シンボルマーク

商工観光課 ☎66・1120

6月の蒲郡観光名物といえ、なんととっても東海最大規模の5万本の花が咲き誇る形原温泉 あじさいの里の「あじさい祭り」。夜にはライトアップされ、昼と夜の2つの表情を見せるあじさいの花の魅力をたん能することができ、ますます。さらに今年は、蒲郡市、幡豆町、幸田町と一緒に、三ヶ根山スカイラインであじさいイベントも開催します。

実はこのイベント、蒲郡市観光ビジョンでうたわれている「広域連携事業」のひとつなんです。広域連携事業という堅苦しく思われるかも知れませんが、これは自分のまちだけではなく、近隣のまち

## 隣近所と一緒にPR

の魅力(観光資源)と一緒に、なってPRすることで、1+1が2ではなく、3や4の魅力になるようにしていこうという取り組みの事です。

現在放映中のNHK朝の連続ドラマ小説「純情きらり」を活用した「蒲郡きらりキャンペーン」もそのひとつ。蒲郡―岡崎の間に周遊観光バス「蒲郡きらり号」を走らせ、岡崎の「純情きらり」ゆかりの地を巡ってもらい、蒲郡に泊まってもらおうというものなのです。

そのほかにも、三河湾に面する町がもつ海の魅力や、東三河全域での海と山の魅力をPRし、さらにはもつと広く、東三河と遠州、南信州、伊勢志摩が一体となって観光客を誘致する取り組みなども行なっています。

このように、遠くの方に少しでも蒲郡を知ってもらい、蒲郡に来てもらうために、今後いろいろなまちと手を組んで、さまざまな広域連携活動を展開していきます。